皮下出血を主訴としたループスアンチコアグラント低プロトロンビン血症症候群の１例

◎渡部 貴[1)]、岡崎 沙織[1)]
市立三次中央病院[1)]

【はじめに】ループスアンチコアグラント（LA）はリン脂質依存性凝固反応を阻害する免疫グロブリンと定義され、抗リン脂質抗体症候群において血栓形成との関連性が指摘されている。また、小児においては感染を機に一過性に LA 陽性となることも知られており、そのほとんどは無症状であるが、出血症状を呈し LA 陽性で低プロトロンビン血症を伴うループスアンチコアグラント低プロトロンビン血症症候群（LAHPS）も存在する。今回我々は両膝周囲の皮下出血を主訴とした LAHPS 症例を経験したので報告する。【症例】６歳女児〈主訴〉両膝周囲の皮下出血〈既往歴〉特になし〈現病歴〉1 週間前に腹痛強く食欲不振を認め自宅にて経過観察、数日で軽快食欲も改善。2 日前より両膝周囲に皮下出血を認めたため当院小児科外来受診となる。【来院時検査所見】WBC7,300/μl、Hb13.6g/dl、PLT24.6 万/μl、AST37IU/l、ALT25IU/l、LDH318IU/l、CK248IU/l、CK-MB12IU/l、CRP0.0mg/dl、APTT120.0 秒以上、PT32％、INR1.92、Fib216.4mg/dl、FDP2.5μg/dl 未満、と凝固時間の著名な延長を認めた。【追加検査】クロスミキシング試験では即時反応、遅延反応ともに直線型で LA パターン、dRVVT2.61、Ⅱ因子 5％、Ⅴ因子 79％、Ⅶ因子 54％、Ⅷ因子 7％、Ⅸ因子１％以下、Ⅹ因子 70％、ⅩⅢ因子 62％、aPS/PT74U/ml、CH50 20.15IU/ml、C3 87mg/dl、C4 6mg/dl、抗核抗体 40 倍、抗 DNA 抗体（－）【経過】出血症状を認め、LA 陽性、低プロトロンビン血症、aPS/PT 陽性、低補体血症より LAHPS と診断。出血症状は軽度であったため無治療で外来経過観察となる。外来受診 5 日後には膝周囲の皮下出血は消失、外来受診 14 日後の検査では APTT48.0 秒、PT78％、INR1.13、dRVVT1.82、と改善を認めた。【まとめ】今回我々は LA 陽性で血栓症ではなく出血症状を呈する LAHPS 症例を経験した。小児における LAHPS 症例ではウイルス感染を契機に発症することが多く、本症例でも腹痛後に発症していたことから何らかのウイルスによる腸炎が契機となった可能性がある。

連絡先　0824-65-0101（内線 2137）